

写真は、肉眼を越える。



Ken Domon Museum of Photography

設計/谷口吉生

1984年 第9回吉田五十八賞受賞
1987年 芸術院賞受賞
2009年 第9回JIA25年賞受賞

- A 銘板 亀倉雄策
- B 彫刻 イサム・ノグチ「土門さん」
- C 庭園 勅使河原宏「流れ」
- D 銘石 草野心平筆「湖」
- E オブジェ 勅使河原宏「樹魔」

平成14年6月3日
天皇皇后両陛下行幸啓



- 1.入口
- 2.エントランスホール
- 3.主要展示室
- 4.企画展示室I
- 5.ギャラリー
- 6.土門拳記念室
- 7.企画展示室II
- 8.ミュージアムショップ
- 9.事務室
- 10.館長室
- 11.資料閲覧室
- 12.準備室
- 13.男子洗面所
- 14.女子洗面所
- 15.写真作業室
- 16.倉庫
- 17.電気室
- 18.収蔵庫1
- 19.前室
- 20.特別収蔵庫
- 21.収蔵庫2
- 22.機械室
- 23.空調機械室
- 24.中庭
- 25.企画展示室II 前庭園
- 26.白鳥池

●飛行機の場合(ANA)

羽田空港—庄内空港 約60分

●電車の場合(JR線)

東京—新潟—酒田 約4時間
(上越新幹線—羽越本線)

●お車の場合

日本海東北自動車道—酒田ICより約5分
(飯森山公園内駐車場をご利用ください)

開館時間

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日

4月～11月までは無休(ただし展示替えのため臨時休館あり)
12月～3月毎週月曜日(祝日のときは開館し、翌火曜日休館)
年末年始 ※年間カレンダーをご確認ください。

入館料
(20人以上の団体)

一般 / 430円 高校・大学生 / 210円 中学生以下 / 無料
(370円) (160円)

※特別展期間中は料金が変更になります。

会員券

特別会員 / 10,800円 (10人まで入場可) 普通会員 / 2,160円 (2人まで入場可)



〒998-0055 山形県酒田市飯森山2-13(飯森山公園内)

TEL・FAX 0234-31-0028

<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

土門拳記念館

Ken Domon Museum of photography





土門拳
©藤森武
(1909~1990)

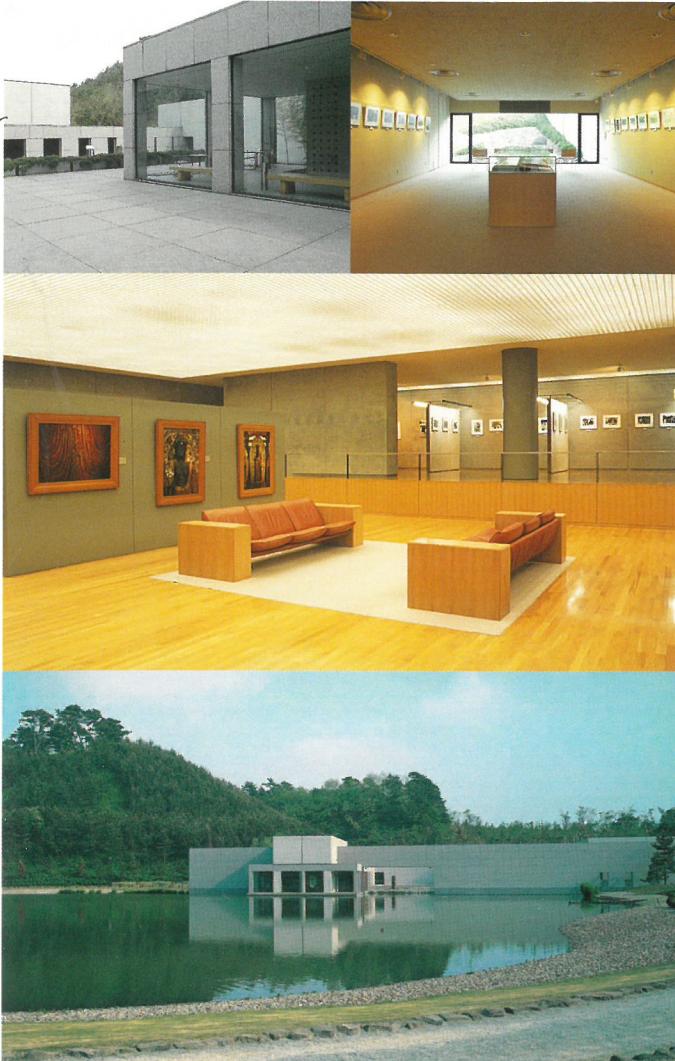
日本で最初の写真美術館。

土門拳は戦後日本を代表する写真家の一人である。リアリズムに立脚する報道写真、日本の著名人や庶民などのポートレートやスナップ写真、寺院、仏像などの伝統文化財を撮影。激動の昭和にあって、そのレンズは真実の底まで暴くように、時代の瞬間を切り取ってきた。土門拳記念館は一人の作家をテーマにした世界でも珍しい写真専門の美術館として1983年10月、土門の郷里である山形県酒田市に開館した。土門拳の全作品約7万点を収蔵。土門のライフワークであった「古寺巡礼」をはじめ、「室生寺」「ヒロシマ」「筑豊のこどもたち」「文楽」「風貌」などの作品を、その保存をはかりながら順次公開している。



全作品7万点を、郷里・酒田市に寄贈した。

1974年酒田市名誉市民第1号となった土門拳は、自分の全作品を郷里酒田市に贈りたいと語った。酒田市はそれに応え、1983年土門拳記念館を完成した。敷地は、市街地から南西4kmに位置する飯森山公園の中に選び、美しい自然林と丘を背景として、前面に池を配し、広大な水田地帯を視野に收めながら、秀峰・鳥海山を眺望する絶好の場所に建物を据えた。設計は谷口吉生氏。氏は、この美しい自然環境と建物をいかにして協調させるかを最も重視し、その協和する響きの中に、土門拳の芸術空間をより高純度に熟成することを主題とした。



名立たる芸術家たちが残した友情の証。

記念館の建設にあたって、土門拳と深い親交のあった芸術家たちが力を集結した。グラフィックデザイナー亀倉雄策氏が入口正面に銘板とほかにポスター・チケットを、彫刻家イサム・ノグチ氏が中庭に彫刻とベンチを、華道草月流三代目元勅使河原宏氏が庭園とオブジェを、それぞれに寄贈。この友情のプレゼントは、記念館の芸術的趣を一段と高めている。2009年には、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」に二つ星として格付けされた。

- 1.彫刻 イサム・ノグチ「土門さん」 2.庭園 勅使河原宏「流れ」
3.銘板 亀倉雄策 4.銘石 草野心平筆「拳湖」

